




世界農業遺産
静岡の茶草場農法 

世界農業遺産「静岡の茶草場農法」 の実践による生物多様性の保全

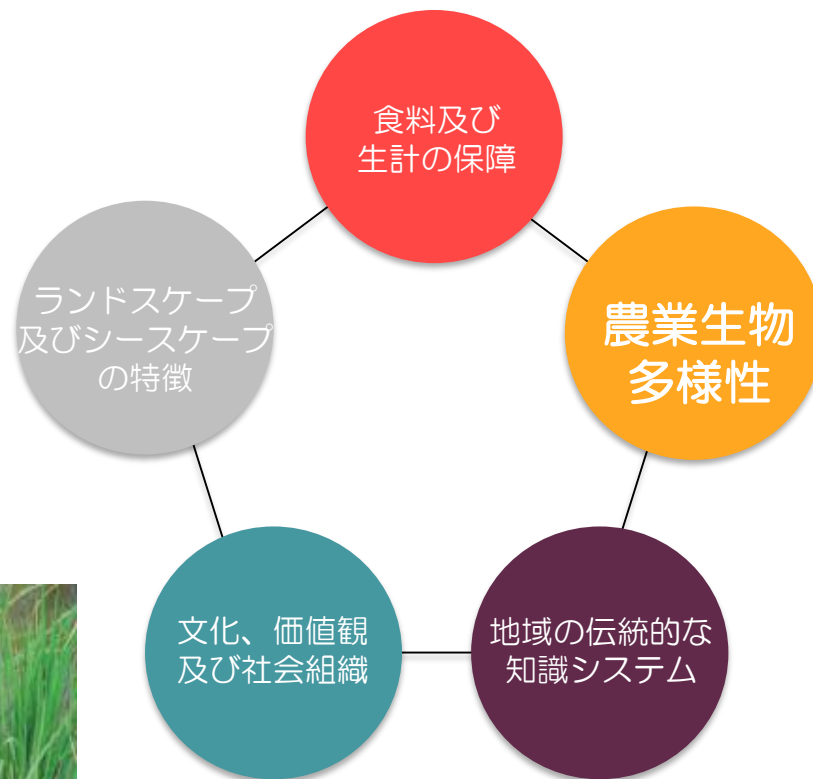
静岡県

2017年10月13日（金）

世界農業遺産

社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた農業上の土地利用、伝統的な農業文化、景観、生物多様性などの世界的に重要な農業システムを国連食料農業機関（FAO）が認定

世界17カ国38地域が認定



世界農業遺産の認定基準

2017年1月時点

日本では8地域が認定（2017年8月現在）

認定地域	内 容	認定年
①新潟県佐渡市	トキと共生する佐渡の里山	2011
②石川県能登地域	能登の里山里海	
③静岡県掛川周辺地域	静岡の茶草場農法	2013
④熊本県阿蘇地域	阿蘇の草原の維持と持続的農業	
⑤大分県国東半島宇佐地域	クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環	
⑥岐阜県長良川上中流域	清流長良川の鮎	2015
⑦和歌山県みなべ・田辺地域	みなべ・田辺の梅システム	
⑧宮崎県高千穂郷・椎葉山地域	高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム	



水田で採餌するトキ



阿蘇の草原「野焼き」



能登の棚田



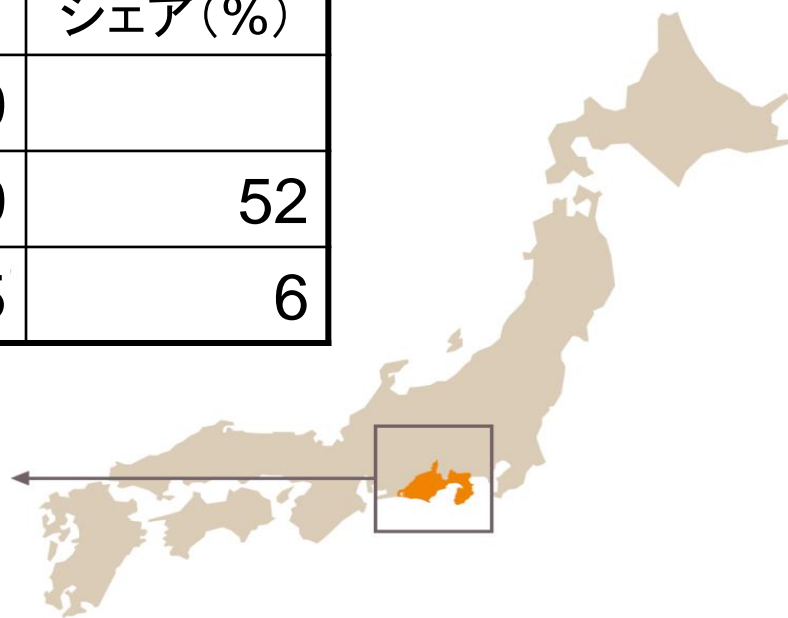
長良川の清流に生息する鮎

世界農業遺産「静岡の茶草場農法」認定地域

(静岡県掛川市、菊川市、島田市、牧之原市、川根本町)

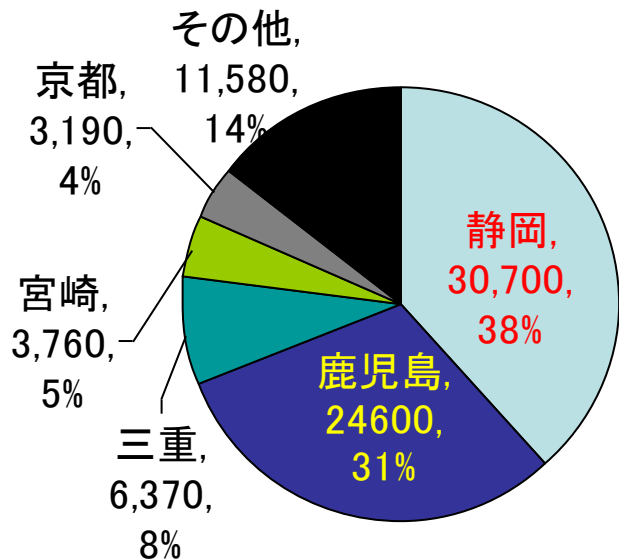
区分	茶園面積(ha)	シェア(%)
県	17,400	
認定市町	9,000	52
茶草場農法茶園	1,185	6

※認定市町茶園面積は静岡県お茶振興課推計

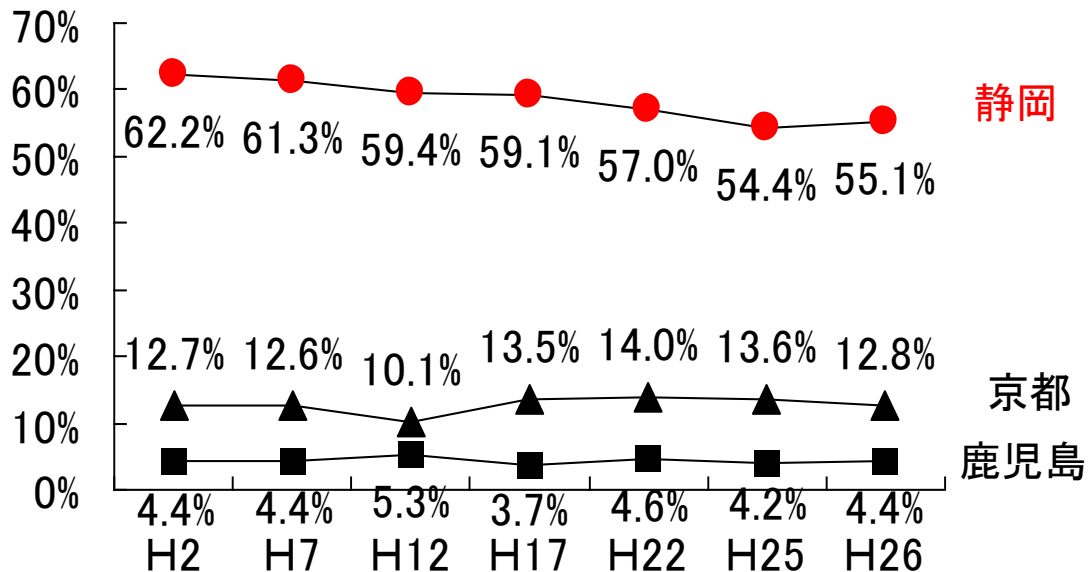


静岡県茶業の現状

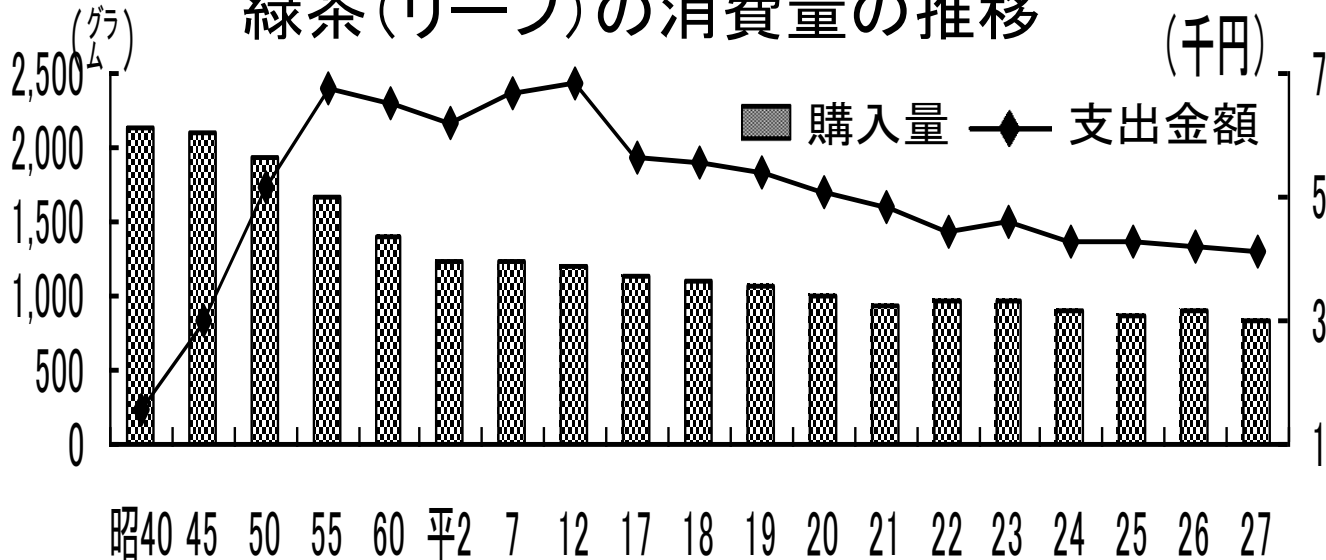
荒茶生産量(t)



府県別の仕上茶出荷額シェア



緑茶(リーフ)の消費量の推移



茶草場

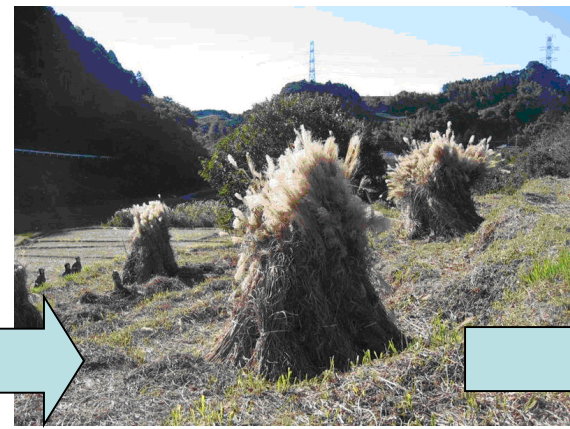


茶草場

①草刈 (11月頃)



②乾燥



④投入(2月頃)

③裁断 (裁断しない農家もある)



茶草の施用効果

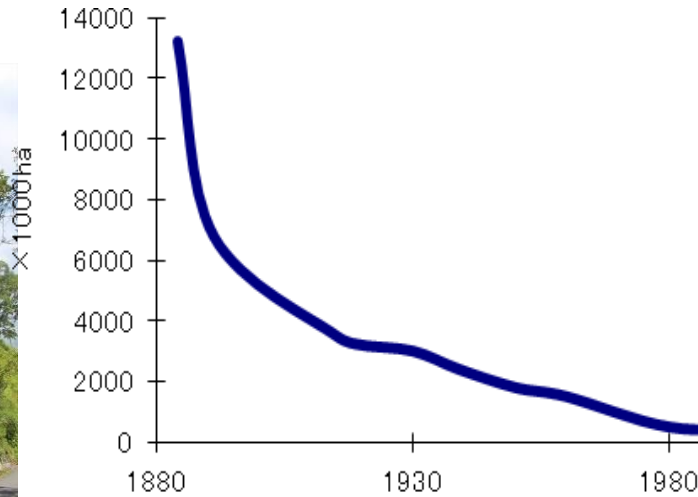
土壤の保肥力の向上

雑草抑制

干害防止

土壤の流出防止

茶草場に息づく生物多様性



全国で減少する草地

良いお茶を作りたい
という農家の努力が

高品質な茶の生産と

生物多様性の保全

この二つが両立



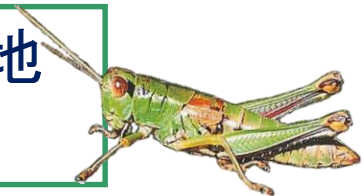
世界的にも希少な事例



早春の太陽光が小さな植物にも注がれる



300種類以上の草地
生植物が生存



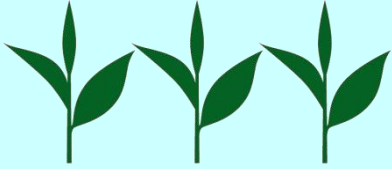


茶草場農法の支援の仕組み

①認定制度	茶草場農法実践者を認定、この農法で作った製品を明確にし、価値を付加
②茶草場管理のサポート	作業応援ボランティアの受入窓口を各認定市町に設置して、茶草場管理を支援
③景観の保全	霜害を防ぐ防霜ファンの支柱の塗装、ガードレールの交換、景観計画の策定
④観光との連携	観光タクシーの運営、茶草場ツーリズムの商品化
⑤情報発信	応援ロゴマークの活用、ホームページやSNSを通じた情報提供、首都圏でのPRイベント

農法実践者認定制度の推進

茶草場管理面積/茶園経営面積 の割合

認定区分	認定表示
5%未満	なし
5～25%未満	
25～50%未満	
50%以上	

茶園経営面積に対する茶草場の管理面積に応じ、

3ランクの認定

このお茶は、世界農業遺産
静岡の茶草場農法
の実践者により生産された
ものです。
生物多様性保全貢献度




この表示は生物多様性保全
貢献度を茶葉の数でしめた
ものです。詳細はQRコードで
Webサイトをご覧ください。

世界農業遺産
「静岡の茶草場農法」
推進協議会

認定実績(H29年8月時点)

シール販売数累計	257万枚
商品数	238品
販売業者数	128社
実践農家	509戸

生物多様性調査の実施

区分	掛川市	菊川市	島田市
確認種類数	360種	251種	363種
絶滅危惧種	2種	3種	1種
外来種数	16種	12種	5種

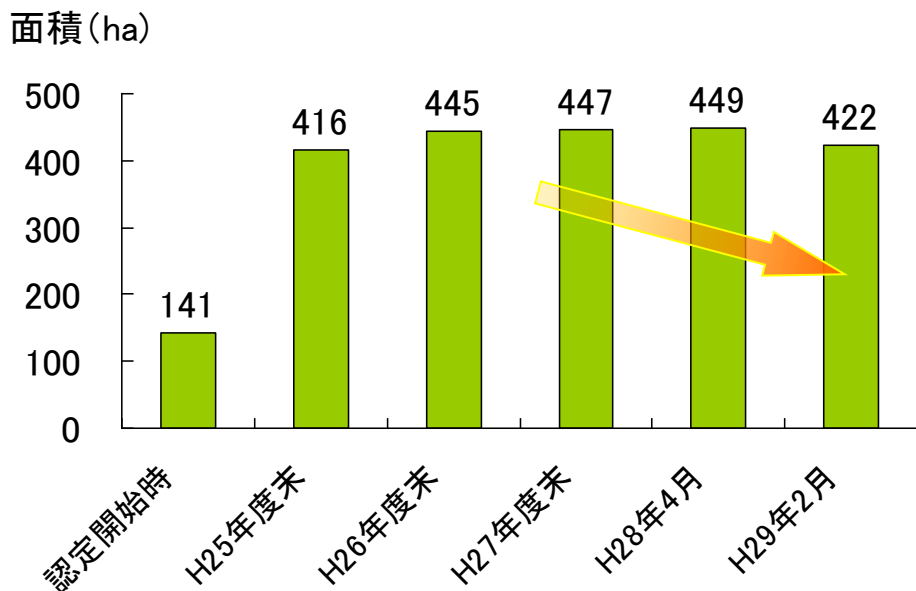


	2004		2009		備考
	在来種	外来種	在来種	外来種	
茶草場1	20	0	23	0	年1回晩秋に草刈り
茶草場2	46	1	55	1	年1回晩秋に草刈り
茶草場3	28	0	11	0	2007年に草刈り放棄
茶草場4	11	7	8	7	年3回草刈り(新設地)

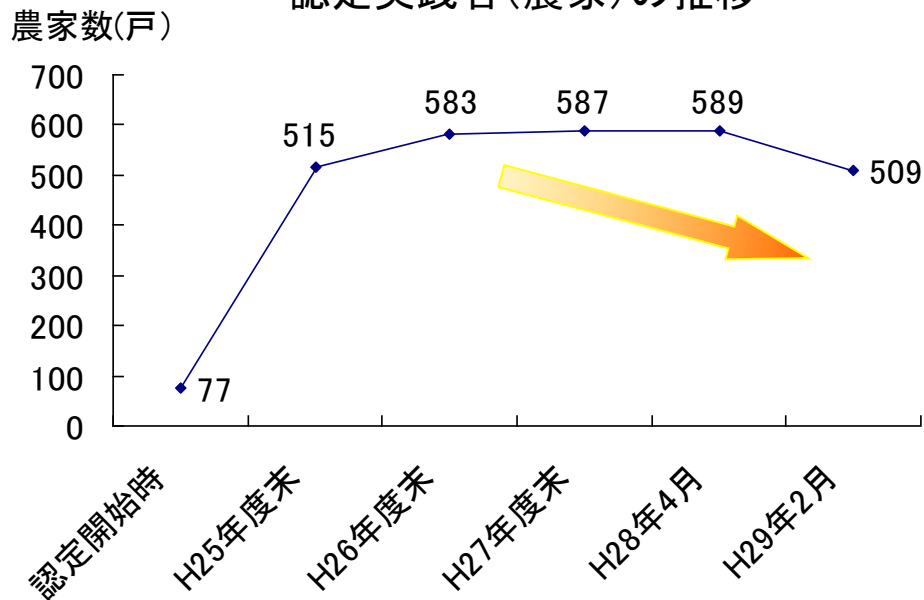
年1回の草刈りを行った草地は生物多様性が上昇

茶草場の面積、認定農家数、応援ボランティア数の推移

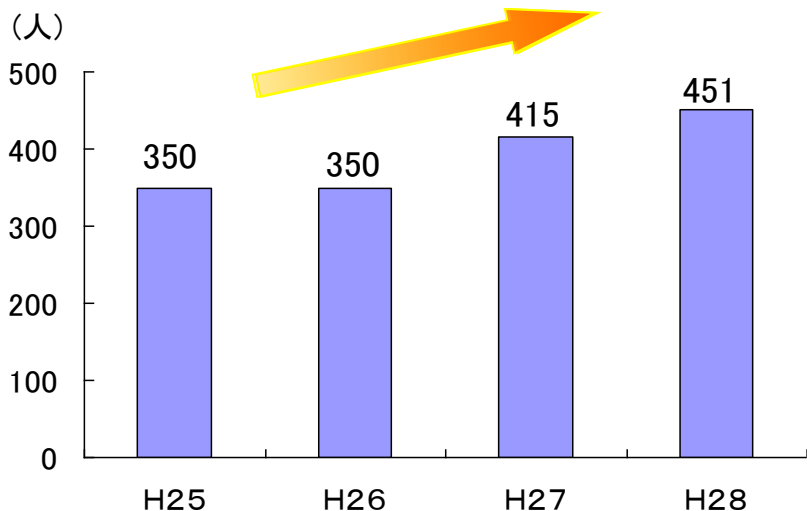
認定された茶草場面積の推移



認定実践者(農家)の推移



茶草場管理作業応援ボランティアの推移



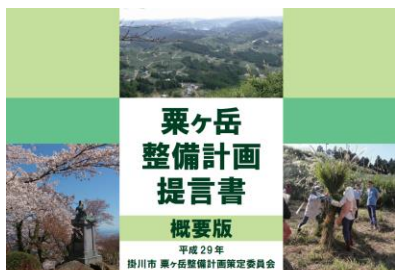
- ・認定者及び茶草場面積は担い手への集積が進んでいるが、やや減少傾向
- ・作業が大変、収益に反映されにくい
- ・作業応援ボランティアは増加傾向

景観の改善

観光との連携



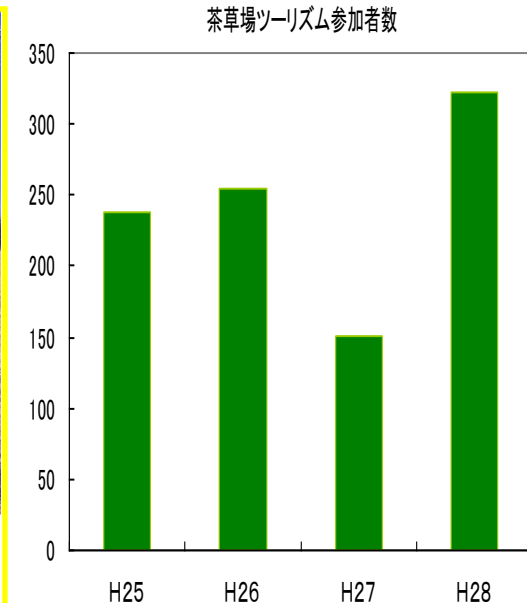
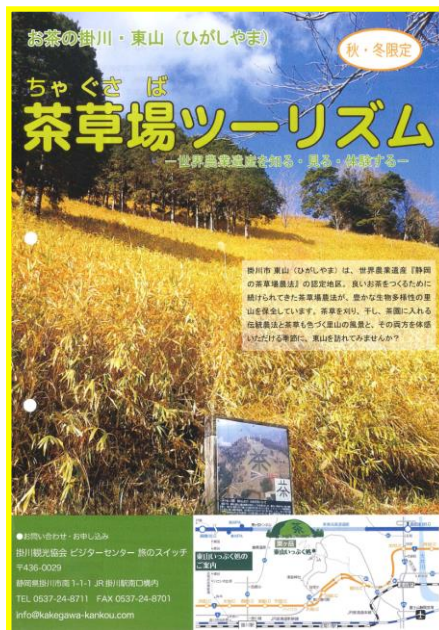
・景観改善のための防霜ファン塗装



・掛川市が粟ヶ岳整備計画を策定



・美しい景観を守り高める







・茶草場ツーリズムの拡大



・世界農業遺産観光タクシー事業

今後の方向

世界農業遺産「静岡の茶草場農法」推進協議会は、茶草場農法を持続可能な生産活動とするため、応援制度を策定して活動を推進している。

推進方向	写真	施策
企業の応援		寄付金制度の創設 作業応援を推進する受入の仕組みの構築 ←企業応援ボランティアの活動の様子
人づくり		子供の環境教育の場 ボランティアによる農作業体験 ←市民向け体験イベントの様子
茶草場ツーリズムの推進		誘客促進のための受入れ環境の整備、体験プランのパッケージ化、メニュー化、商品化 ←認定地域の景観を楽しむハイキング
情報の発信		ふじのくに茶の都ミュージアムでの展示、ホームページやロゴマークの活用、首都圏でのPR ←平成30年3月にオープンするふじのくに茶の都ミュージアム